

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700117		
法人名	株式会社アライブ		
事業所名	グループホーム楓		
所在地	岐阜県恵那市三郷町野井亀ヶ沢1736-244		
自己評価作成日	令和4年2月25日	評価結果市町村受理日	令和5年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191700117-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191700117-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和5年3月27日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」グループホーム楓は車椅子となっても安心な設備を整えていますので、ADLの変化による居住環境を変えることなく、慣れ親しんだ場所で生活を続けて頂く事ができます。住む人、働く人、訪れる人、すべての人の心落ち着く癒される五感で想い、感じる建物と庭園が一体となる和モダンの造りとなっています。自治会のご協力を頂き、地域行事への積極的な参加や地域の方を交えた施設行事を行い、入居者様と地域住民の皆様が顔馴染みの関係となれるよう、職員一丸となり取り組んでいます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

遠く恵那山を望む自然豊かな環境にある。地域の理解と協力を得ながら、職員は、利用者が慣れ親しんだ場所にあるホームを終の棲家として、笑顔で暮らせるよう信念をもって支援している。理念をしっかりと心に留め、利用者「に「想い」のこもったサービスを提供する事が「事業所の目標」であるという施設長の言葉の端々に、優しさ、温かさ、利用者を思いやる気持ちが伝わってくる。職員に対しても、自主性を重んじ定年制を設けていない。施設長の事業活動に対する思いと職員の思いが一致しており、前向きで意欲が感じられる。庭の中央にはシンボルツリーの楓が植えられ、四季折々の表情を見せてくれている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」という理念を元に、地域の中でともに暮らす家族の様な関係性が作れるよう日々努めております。	理念を業務日報にも明記し、常に意識しながらサービスの提供に努めている。理念の文言にある「ともに」は、利用者、家族、職員は勿論、地域も含め、人と人の繋がりを大切に、家族のような関係作りに取り組んでいる。管理者や職員の行動にも表れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事や地域の行事に参加をさせて頂き、交流の機会を多く設けております。コロナにより地域行事が中止になる事が多く出来る形で参加しました。	コロナ禍以前は、自治会の一員として地域の夏祭りや防災訓練等に参加していたが、今は中止となっている。米類等は、地域関係者を通じて購入しており、地域との関係作りに一役買っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解を深めるために、研修の資料や教科書等を設置している事や、運営推進会議等で認知症についての質問があった場合は、説明をさせて頂いております。また、地域ケア会議への参加も実施しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で入居者様の生活をお伝えし、地域の方々の要望、ご意見をお聞きしたのち、サービスの向上に活かしているよう努めています。感染予防対策で実施出来なかった事もあります。	運営推進会議に区長や民生委員が参加している。家族は日程調整が合わず、資料や議事録を家族全員に送り、LINE等で意見をもらっている。利用者の中には毎回会議に出席し積極的な意見を出すなど、会議参加が本人の生き甲斐にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所職員に運営推進会議への参加を依頼し、担当者で相談を行っています。また定期的に市役所に伺い情報交換を行い、協力関係が築けるよう努めています。	運営推進会議には市の職員が出席している。管理者は定期的に市の窓口に出向き、相談や情報交換を行い助言を貰っている。令和4年度は地域ケア会議は全回中止となったが、開催されれば施設長が参加するとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員身体拘束について周知しております。やむ負えず必要になった場合は、ご本人様、ご家族様を含め担当者会議を開催しますが、解除出来るよう随時モニタリング、担当者会議等を行い身体拘束解除を目指します。運営推進会議、ミーティングで身体拘束防止委員会も行ってしております。	身体拘束適正化委員会は毎月の全体会議の中で討議し運営推進会議で報告している。職員が業務に追われて心に余裕がなく、無意識にスピーチロック等、不適切ケアを行うことのないよう、外部講師を招いてメンタルケア研修を行なっている。転倒防止策としてセンサーを使用しながら早めの対応に努め、拘束ゼロを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の資料を作成し、職員へ周知するとともに虐待防止に努めております。2か月に1度運営推進会議内で廃止委員会を実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者より、スタッフに対し、成年後見制度について説明を行うと共に、各自で自主的に地域で行われている研修への参加を促しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に家族に施設見学を行っていたが、入居時に契約について十分な説明、不明な点があれば理解、納得していただき、ご了承いただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時や電話時に、入居者様に対する要望を確認後、内容を職員間で共有し、入居者の生活がより良くなるよう努めております。また、意見箱を設置し、家族や入居者の意見等を頂けるように努めております。	毎月、写真入りのニュースレターを家族に送付している。コロナ禍では、LINEを活用したビデオ通話や窓越しでの面会であったが、2月からは「面会自粛解除」とし、感染予防対策をした上で、面会可能としている。アンケートでは、事業所の説明は100%満足と評価されている。	行事食は毎月のニュースレターで知らせているが、普段の食事内容が知りたいとの家族の要望がある。毎月の便りと一緒に献立表を送るなど、家族の安心に繋がる情報提供に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月日程を決め、定例会議を実施している。定例会議の開催時には代表者、管理者を交え職員間での意見交換を行い反映できるように努めています。コロナの状況により実施できない月もありましたが職員と情報を共有し意見を集めるなど対応を実施しております。	定例会議には、現場も兼ねる管理者や会長も出席し職員の意見や要望を聴きながら、速やかな改善に努めている。個人面談も年2回行っている。毎年、職員一人ひとりが目標を設定しており、それに向けて、やりがいを持って働けるよう、管理者は職場環境作りに取り組んでいる。定年制も廃止している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者が現場に入る事で職員の努力、勤務状況の把握に努め、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人一人に役割や課題を持たせ、責任を持って業務に当たるように努めている。また、介護マニュアルを作成する事で質の向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他施設への見学、交流をさせていただき、意見交換できる機会を作り、外部との繋がりを持つ他、お互い向上出来るような体制づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前、施設見学や事前面接時に、ご本人に面談を行い、要望等を確認し少しでも安心して入居できるように努めさせていただいております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前、施設見学や事前面接時に、ご家族との面談を行い、要望等を確認し少しでも安心して入居できるように努めさせていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前にご本人やご家族と面談し、要望を確認する事で、その時の状況にあったサービスを提供をさせていただき、希望に沿った支援ができるよに心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」の理念の元に入居者様に安心して暮らせるような関係を築く事ができるように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を少なくとも月に一度は行う中で、ご本人の様子等を知っていただき、共にご本人を支えていけるような関係作りに努めています。月に1度ニュースレターを作成し家族に送付しております。LINEを活用しご家族への写真の送付なども実施しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に面会、外出、行事への参加を依頼し、今までのご家族様との関係が途切れないような支援に努めさせていただいております。コロナにより面会中止の時期は電話やテレビ電話などで状況をお伝えさせていただいております。	コロナ禍であったが、感染予防対策を徹底した上で、玄関での面会を実施している。理美容の訪問は中止しており、職員が利用者の髪を整えている。現在は、直接面会を可能とし、家族と一緒に友人の来訪もあった。今後は、家族と一緒に隣の公園での花見等を予定をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性の把握に努め、入居者様が孤立してしまわないように職員が間に入り、入居者様との関係性を構築できるような支援に心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご本人やご家族の介護に対する、不安や悩み等のご相談を頂いた場合は相談や支援が行えるように努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にご本人の暮らしの希望や意向の把握に努め、介護計画、サービスに反映していくように努めています。	入居時のアセスメント情報を参考に、日頃の利用者同士の会話や、個別ケアの際に、利用者の思いや希望を把握するよう心がけている。意思の疎通が困難な場合は、家族からの情報と本人の表情から汲み取っている。把握した内容は介護計画に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談の中でご本人様の生活歴、暮らし方をお聞きし、入居後も以前と同じ生活ができるよ家具を持ってきていただく等の生活環境作りに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の面談の中でご本人の以前の暮らし、心身状態の把握に努め施設での生活が以前の暮らしに沿えるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議でのご本人、ご家族の意見、要望を聴かせていただき反映し、介護計画の作成するように努めています。ご家族にも会議に参加して頂けるよう日程調整の電話やメールでの連絡を行っております。	担当者会議の日程は、家族と調整して決定している。本人がより良く暮らせるよう、家族と共にケア方法や計画について話し合い、多職種連携で介護計画を作成している。計画に基づいて目標達成に向けて実践し、モニタリングは毎月行っている。家族へがLINEで状況を報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の朝礼、終礼または業務日報等に記入。職員間での情報共有を行う中で日々の実践や介護計画の見直しに努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様に関わり、ケアを行うなかで、既存のケア方法や関わりに固執しがちであるが、他種の方法があるのではと、小さな事から職員に、課題として提供し、多機能化に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が以前の生活により近い暮らしが出来るように地域資源の把握し出来る限り利用させていただきご本人の意向に添えるよう努めさせております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診への付き添い支援や月に2回の往診の手配等、ご家族の希望を大切にし、納得がえられたかかりつけ医との密な連携をとり、適切な医療を受けられるような支援を行っています。	本人・家族の希望するかかりつけ医を選択出来ることを説明している。9割の家族が、月2回訪問診療対応の協力医に変更している。専門医や以前からのかかりつけ医への受診は、職員同行も可能とし、職員として配置している看護師が、主治医と連携しながら利用者の体調管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の関わりの中で知れた情報を看護職と情報共有を行い相談し入居者に適切な受診や看護が受けられるように努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の状態変化に早期に対応し、入院期間の短期化に努めています。また搬送先病院等には、早期な情報提供を行い、受診が円滑に行われるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重症化、終末期の方針をご家族様から聞き取り、施設で行える対応について説明しています。また、その状況に応じてかかりつけ医の協力のもと話し合いを行い、ご本人様、ご家族様の希望によっては施設での看取りをさせて頂いております。	医療行為の伴わない自然な看取り支援について説明し、本人・家族と同意書を交わしている。重度化した場合、早い段階で医師と関係者で話し合い方針を共有している。全職員が看取りに関する研修で学んでおり、家族の希望があれば宿泊も可能とし、より良い支援を行えるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生に備え、緊急搬送等、随時看護師より指導、実技講習を定期的に行い実践力の向上に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回(1回は消防署の立ち入り検査)の防災訓練を行い、災害時対応ができるよう徹底しております。また防災訓練に地域の方に参加していただき、協力が得られるような体制作りに努めています。	年2回の災害訓練を行っており、1回は消防署立ち会いで夜間を想定し水消火器での初期消火、通報、避難誘導等を実施している。緊急連絡網には地域住民の名前も記載している。飲料水や食料の備蓄は確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格の尊重、尊厳を守れるように日々傾聴し、その方に合った言葉かけを行うように努めています。	職員は、常に利用者の尊厳を守り、誇りとプライバシーを損ねない支援に努め、利用者との信頼関係を築いている。入浴や排泄支援時には、特に羞恥心に配慮し、声掛けも早口やハイトーンにならないよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の日常生活での思いや希望を傾聴しご本人様からの自己決定ができるよう支援させていただきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合ではなく、入居者様の一人ひとりのペースや生活リズムを大切にし、支援をさせていただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様それぞれに希望をお聞き、選択していただけるような支援を行う中で、その人らしい生活が出来るよう努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれに合った役割や、食事の配膳、下膳等その方に出来る事を行っていただくように心がけ毎日にハリのある生活を送っていただけるよう支援をさせていただいております。	副食は調理済みで業者から届くが、利用者の状態に合わせて、刻みやとろみ等の手を加え、ご飯と汁物は職員が作っている。レクリエーションの一環で、肉じゃがやおやつ作りなど、利用者が手分けして行う事もある。事業所の畑で採れた野菜が食卓にのぼることもある。	家族には行事食や活動等を、便りで紹介をしている。家族から、普段の食事を知りたいとの要望があり、通信と一緒に献立表を送るなど、家族の安心感に繋がる取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や体重の変化を把握し、食事の提供を行っています。水分補給に関してはご本人の希望の飲み物を伺い提供させていただいております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の状態の把握が出来るよう努めています。また口腔ケアが出来る限りご本人で行えるよう支援をさせていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様のそれぞれの排泄パターンを把握する事で排泄の失敗がないような支援を行っています。可能な限りトイレでの排泄をしていただけるように支援をさせていただいております。	チェック表で個々の排泄リズムを掴み、早目の声掛けでトイレでの排泄を支援している。入居時は紙パンツを利用だった人が、布パンツやパッド併用に変更出来た人が6~7人あり、個々の負担費用の軽減に繋がっている。夜間は転倒防止のため、センサーやポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄をチェック表にて確認し、毎日の体操や運動や医師との連携による服薬調整を行い、便秘への個々に応じた予防と対策に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日は決めさせていただいてますが、個々に合わせて随時希望を確認し、希望に沿えるよう支援させていただいております。	利用者の身体状況に合わせて、左右どちらからでも入り易いよう、個浴槽が二つ設置されている。重度の利用者には寝台浴が用意されている。週2回を基本とし、利用者の心身の状態に合わせて、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様それぞれの生活リズムに合わせてそれぞれに合った生活が送っていただけるよう支援させていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報のファイルを作成している事や看護師からの情報伝達が随時行われており、業務日報、朝礼にて周知徹底し介護士全員に症状の把握に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの趣味や生活歴に合わせて、毎日楽しくご本人のペースに合った生活が出来よう努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に地域のお祭りや、喫茶店、近くのお店に買い物に行く等外出、外泊が出来よう支援させていただいております。コロナの時期は外出が中々できない為、紅葉を見にドライブへ出かけたりしました。	以前は、地域行事や喫茶店などに出かけていたが、現在は自粛している。天気の良い日には庭に出て、畑の作物や花を見たり、シンボルツリーである楓の四季折々の表情を眺めながら、外気浴をしている。歩いて行ける公園に桜や紅葉見学にも出かけている。	新型コロナ感染拡大が県内において、一定の鎮静化が見られた為、「面会自粛解除」となった。様々な行事や外出等の再開を目指し、これまで以上に利用者の笑顔が溢れる支援に期待したい。



岐阜県 グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭に関しては施設での管理としています。個人で少しの現金をお持ちの方もみえ買い物などの外出時に自分で支払いをして頂くこともあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	テレビ電話が出来る環境があるため、遠方の家族や知人と顔を見ながらの会話が楽しめます。また、手紙のやり取りに関しましても、ご本人やご家族のご意見に合わせて支援させていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は開放的となっており外の光を感じられるように工夫しております。庭園には楓の木や花壇があり、一年を通して、四季を感じて頂ける工夫しております。	共用空間には大テーブルとゆったりとしたソファがある。新聞や雑誌を読んだり、廊下にはベンチが置かれ気の合う人と会話を楽しむ等、好きな場所で過ごすことが出来る。空気清浄機が設置され、気持ちの良い空間となっている。大きな窓から見える庭の楓が風に揺れるのが見え、開放感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは一人ひとりが過ごしやすい場所が確保できるようテーブルから離れた所にソファを設置している事や気の合ったご利用者様同士で過ごす事ができるように座る位置等に留意しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は使い慣れた馴染みのある物をお持ち頂くようにし、生活環境に変化があっても、混乱を防ぎ、ご本人が居心地よく過ごす事が出来るように努めております。	居室の入り口には、利用者の顔写真入りの表札がかけられている。窓枠が低く、車椅子やベッド上から外の景色が眺められる。馴染みの家具や小物を持ち込み、好きなように配置し、自分の作品や写真を飾り落ち着いて過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様の意思表示に対し、出来る事を理解して頂き、今持つ「できる能力」のなかで、ご本人が自立心をいただいていた様な生活、役割を職員と共に考え、支援しております。		